

第2章 本市の食を取り巻く現状

1 食に関する調査から見る現状

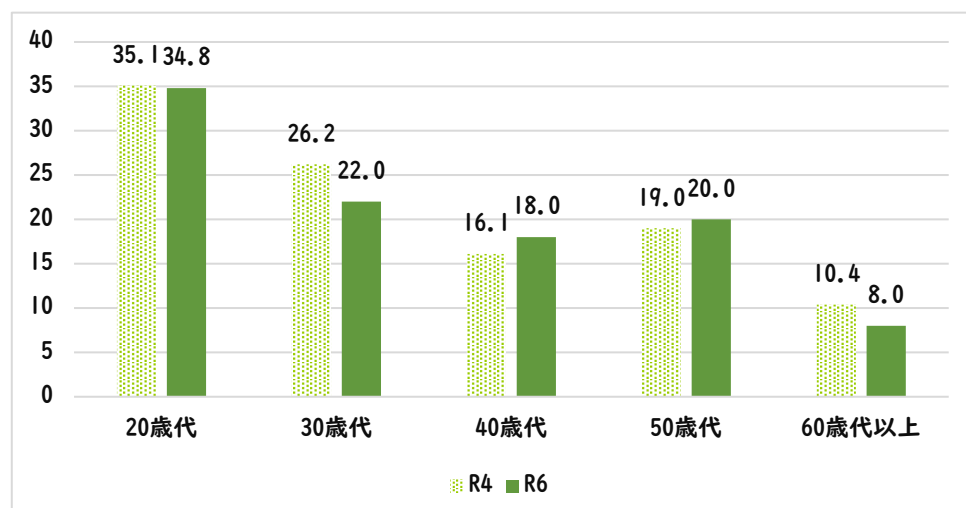
令和3年度（2021年度）から令和6年度（2024年度）までに実施した事業等におけるアンケートや調査の結果から見られる現状は以下のとおりです。

(1) 朝食について

令和4年度（2022年度）と比較すると、令和6年度（2024年度）の「毎日、朝食をとっていない人」の割合は、30歳代と60歳代以上では減少していますが、それ以外の年代では横ばいか増加しており、年代が下がるにつれて朝食を食べない人が多くなる傾向が見られます。【図1】

また、朝食を毎日食べている小学生（6年生）と中学生（3年生）の割合は、全国平均に比べ、少なくなっています。【図2】

図1 朝食の欠食割合（成人）（単位：％）



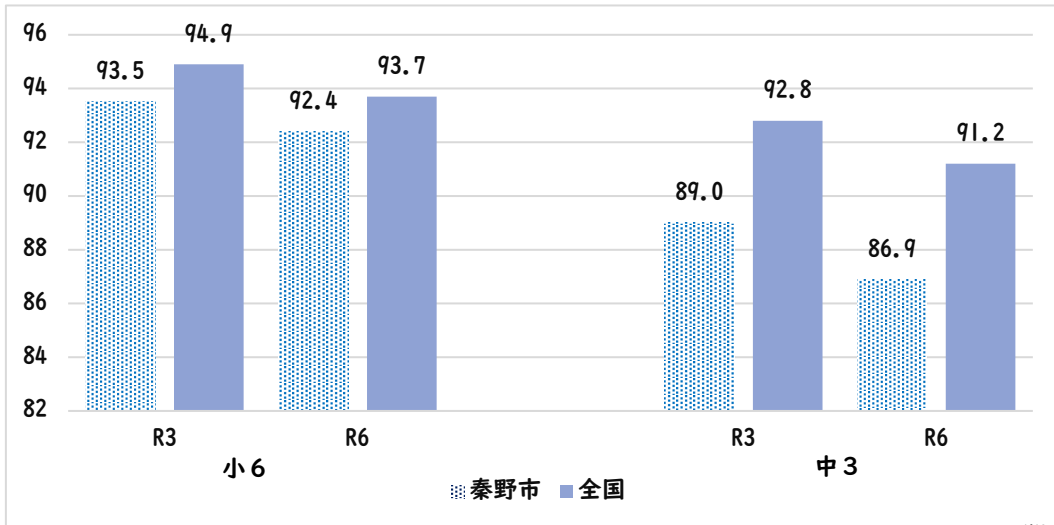
秦野市Webアンケート調査※1

（令和4年度（2022年度）、令和6年度（2024年度） n=400）

※1 秦野市Webアンケート調査

行政サービスと市民の行政に対する意識の向上、調査のための基礎資料を得るために実施しているインターネットを利用したアンケート調査。対象者数は回収ベースで400人。

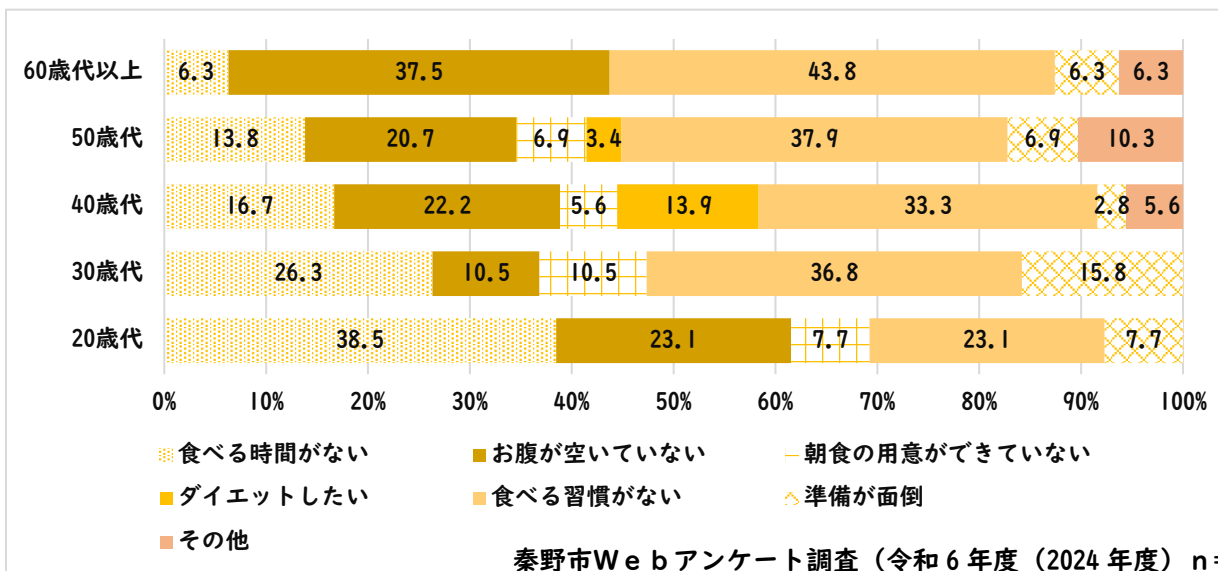
図2 毎日朝食を食べている割合（小学6年生、中学3年生）（単位：％）



小6・中3：全国学力・学習状況調査※2
（令和3年度（2021年度）、令和6年度（2024年度））

朝食欠食の理由として、30歳以上の世代において「食べる習慣がない」が最も多く、20歳代では「食べる時間がない」、「お腹が空いていない」、「食べる習慣がない」が上位となっています。【図3】

図3 朝食欠食の理由（単位：％）



秦野市Webアンケート調査（令和6年度（2024年度） n=400）

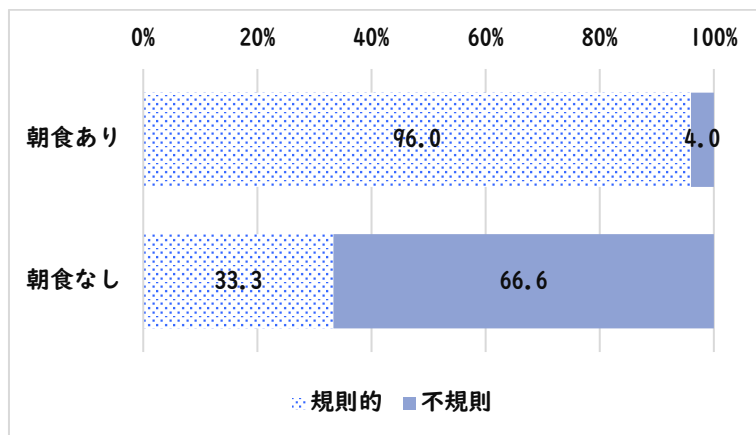
※2 全国学力・学習状況調査

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図ること等を目的とし、小学6年生と中学3年生を対象に文部科学省が実施。

(2) 生活リズムについて

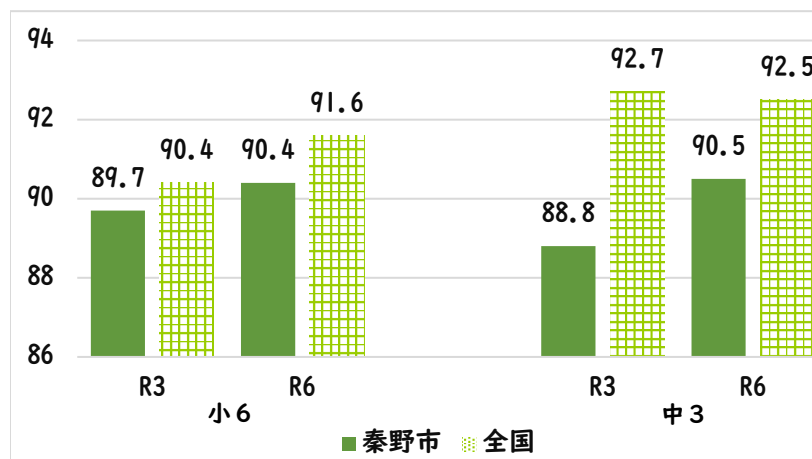
3歳6か月児では、生活リズムが不規則な子は規則的である子に比べ、朝食の欠食が多くなっています。【図4】また、毎日同じ時間に起床している割合は、小学生（6年生）、中学生（3年生）ともに全国平均と比べ、低い現状が見られました。【図5】

図4 生活リズムの規則性と朝食の有無（幼児）（単位：％）



令和6年度 3歳6か月児健康診査問診票集計

図5 毎日同じ時間に起床している割合（小学6年生、中学3年生）（単位：％）

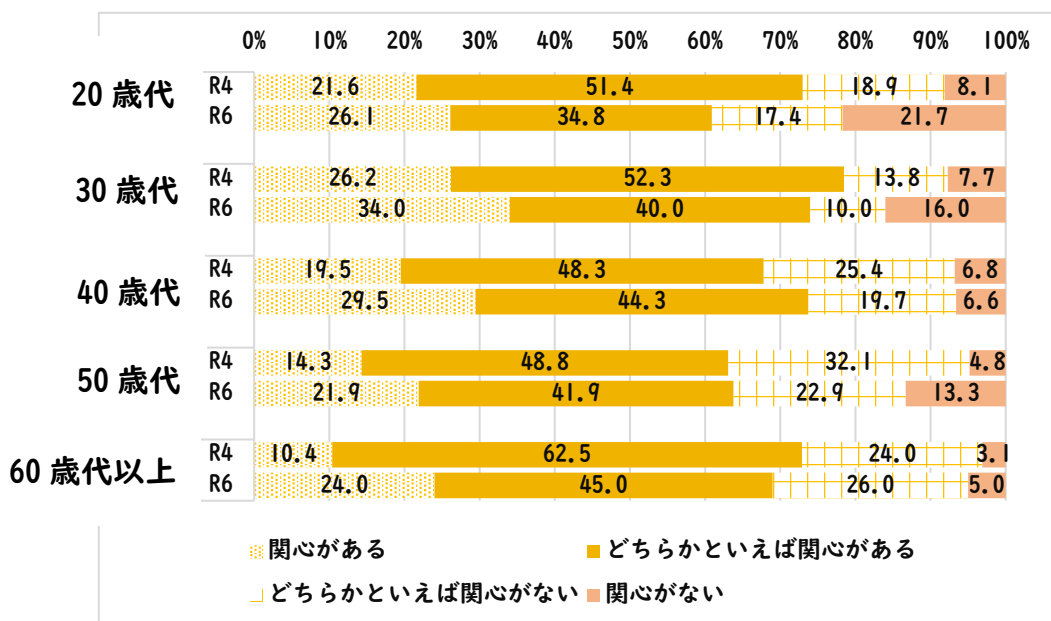


小6・中3：全国学力・学習状況調査
（令和3年度（2021年度）、令和6年度（2024年度））

(3) 食育への関心の有無

食育に関心がある人（「ある」、「どちらかといえばある」）は、令和4年度（2022年度）と比較すると、令和6年度（2024年度）は20歳代、30歳代、60歳代で減少しており、40歳代と50歳代で増加しています。すべての世代で「どちらかといえば関心がある」の割合が多くなっています。【図6】

図6 食育への関心がある人の割合（単位：％）



秦野市Webアンケート調査
（令和4年度（2022年度）、令和6年度（2024年度） n=400）

学校給食と地産地消

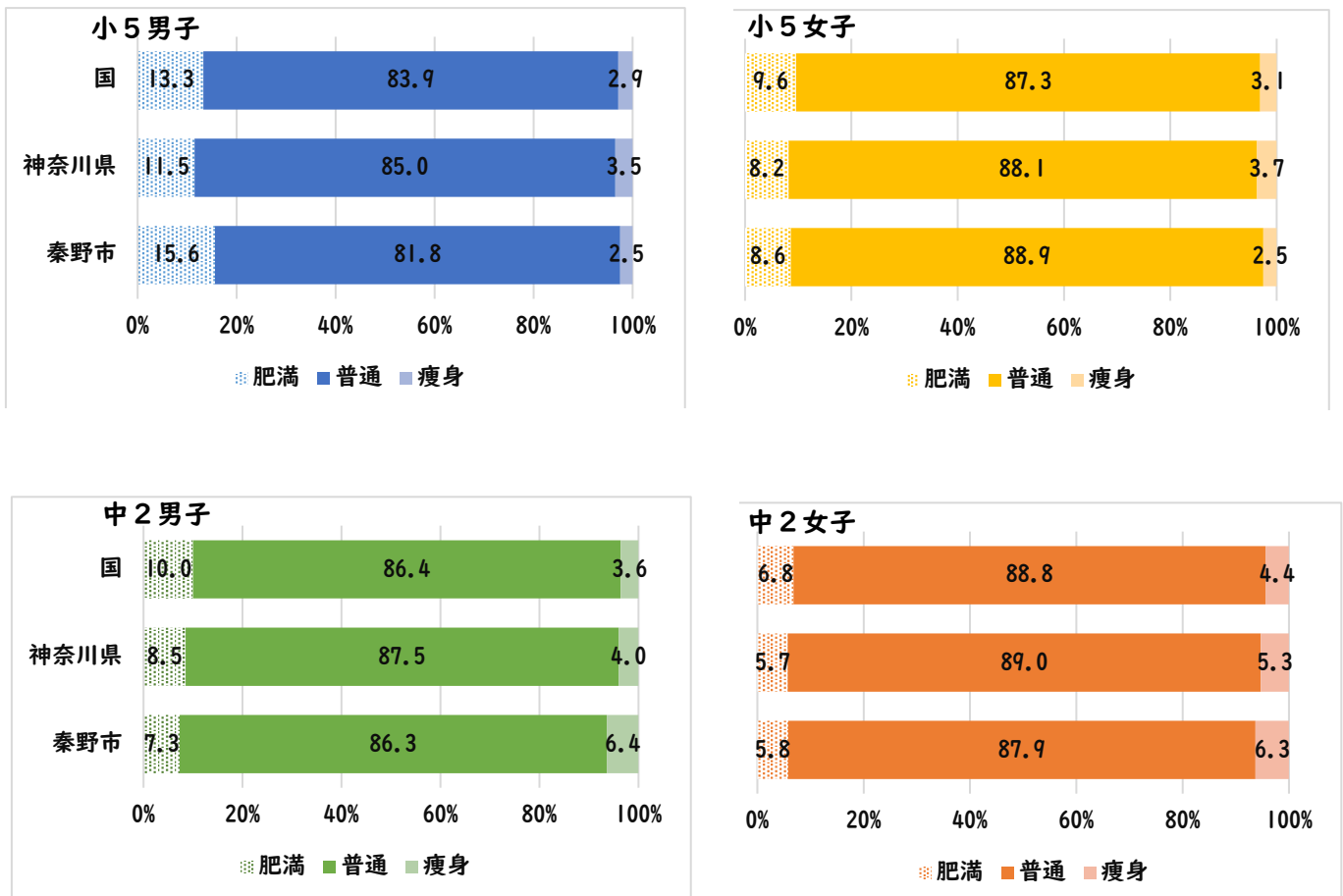
給食では日常的に地場産物を使用していますが、小学校では「かながわ産品学校給食デー」として、中学校では「ふるさと秦野食育DAY」として、秦野産や県産を取り入れた献立の提供も行っています。生産者との交流や規格外野菜の活用なども行い、食への関心や地産地消の意識を高め、地域とつながる食育を実践しています。



(4) 体型の状況

本市の小学生、中学生の体型は「普通」が最も多くなっています。国や神奈川県と比べると、本市では、小学5年生男子の肥満の割合が高くなっています。【図7】

図7 体格の状況（小学生・中学生）（単位：％）



令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査※3報告書



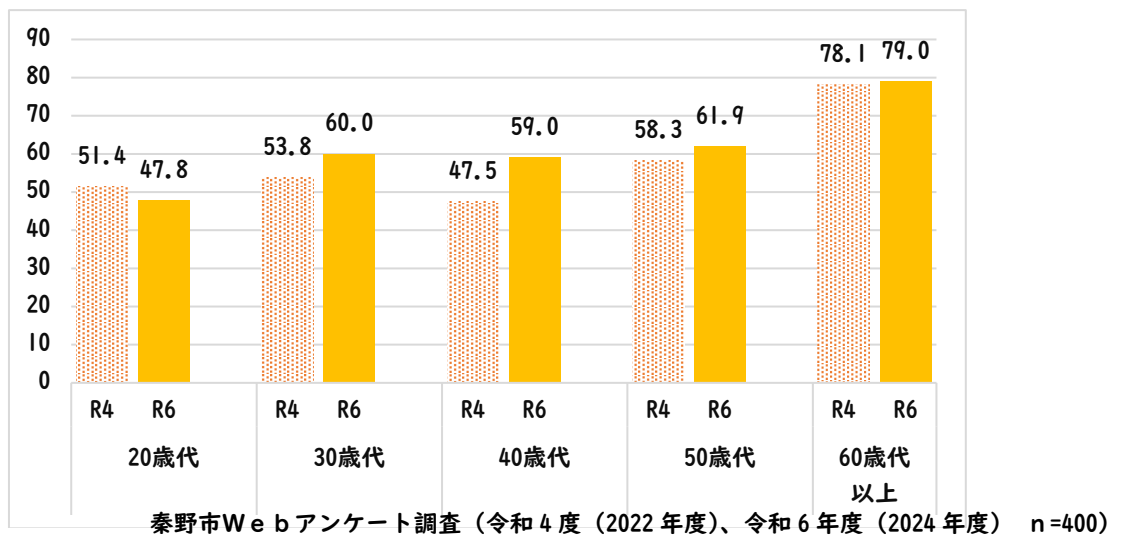
※3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

こどもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、教育委員会等がこどもの体力・運動能力の向上に係る施策等の成果と課題を検証し、その改善を図ること等を目的にスポーツ庁が実施。

(5) 働く世代の栄養バランス

日頃から栄養バランスを考え、主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人の割合は、50歳代、60歳代が多くなっています。令和4年度（2022年度）と比較すると、30歳代以降では増加していますが、20歳代では減少しています。【図8】

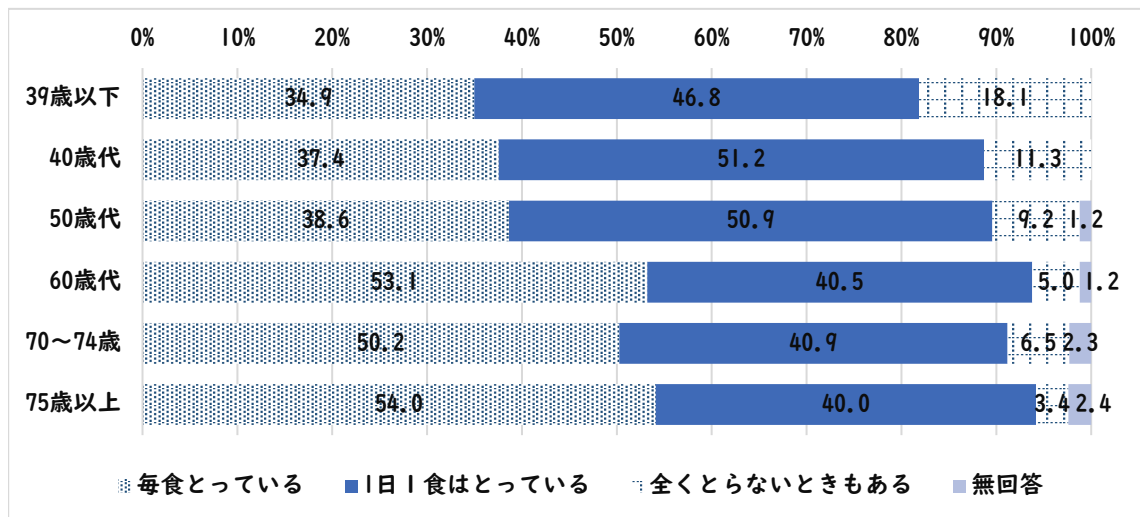
図8 主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人の割合（単位：％）



毎食野菜をとるようにしている人の割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。「全くとらない時もある」と答えた人の割合は、39歳以下が多く、特に若い世代で野菜をあまりとらない現状が見られます。

【図9】

図9 毎食野菜をとるようにしている人の割合（単位：％）

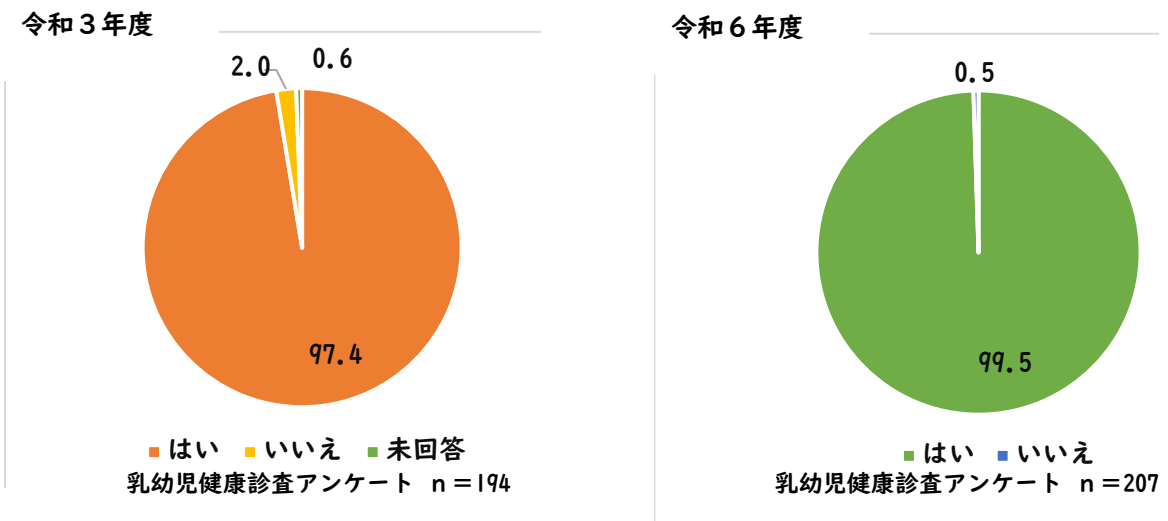


(6) 共食について

共食^{※4}が、こころとからだの健康にとってよいことだと認識している人の割合は、令和3年度（2021年度）には97.4%でしたが、令和6年度（2024年度）には99.5%となりました。

共食はコミュニケーションを通じて食の楽しさを実感するだけでなく、望ましい食習慣を身に付けることや、食への関心を高める機会となるため、引き続き、共食の大切さを伝え、共食の実践に結び付けていく必要があります。【図10】

図10 共食がこころとからだの健康にとってよいことだと知っているか
(単位：%)



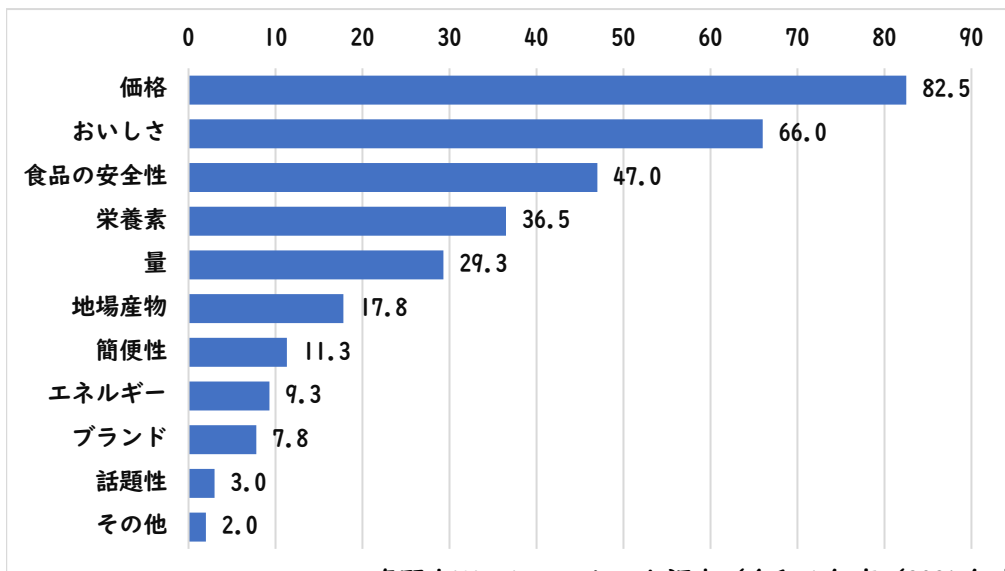
※4 共食

食事を誰かと共にすることで、家族や仲間などと食卓を囲んで、食事をとりながら、コミュニケーションを図ること。

(7) 食品を選択する際に重視すること

食品を選ぶ基準は、「価格」が最も高く、次いで「おいしさ」「食品の安全性」の順になっています。【図11】

図11 食品を選ぶときに、何を意識して購入するか（複数回答、単位：％）



秦野市Webアンケート調査（令和6年度（2024年度）n=400）

名水の里 秦野

丹沢山地と渋沢丘陵に囲まれた秦野盆地は、神奈川県で唯一の盆地であり、その地下構造は地下水を貯めておく「天然の水がめ（地下水盆）」となっています。この天然の水がめには、約7億5千万トンの地下水が蓄えられており、この豊富な地下水が市内のいたるところで湧き出ています。

この秦野の地下水は、昭和60年に名水百選「秦野盆地湧水群」として選定され、また平成28年3月には、地下水をボトルングした「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」が名水百選選抜総選挙おいしさが素晴らしい名水部門で全国1位に輝いています。

